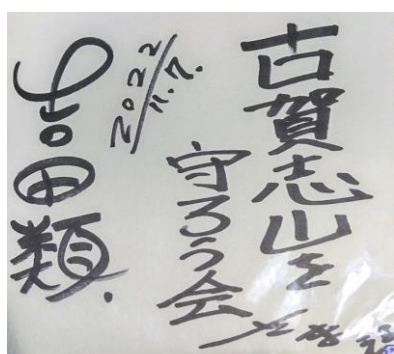


<p>M t .Kogashi</p> <p>会報誌第 24 号</p> <p>発行人 池田正夫</p> <p>発行日 令和 5 年 2 月 28 日</p>	<p>事務局 〒320-0811 宇都宮市大通り 2 丁目 4 番 18 号 NPO 法人 古賀志山を守ろう会</p> <p>https://npo-mt-kogashi.jimdo.com/ E mail npo.mt.kogashi@gmail.com</p>
---	--

I 「にっぽん百低山」に古賀志山が登場！

NHK の番組「にっぽん百低山」担当の小倉デレクターから古賀志山を取材したい旨の連絡が入り、「古賀志山の歴史を含めた取材をしたい」との要望があった。同氏に古老から聞いていた「古賀志には過ぎたるものが三つあり。背戸の御山に三瀧、三窟」という話を伝えると、「是非その個所を案内してもらいたい」との回答を得た。

取材当日（11月7日）、主役の酒場詩人吉田類さんとモデル菖蒲理乃さんとは古賀志町南駐車場にて合流。取材班一行は古賀志山主稜線の前衛岩壁の付け根にある三瀧（荒沢の瀧・女瀧・男瀧）と三窟（大日窟・弁天窟・権現窟）に向かった。取材班は大型カメラを肩に時折ドローンを飛ばして撮影を行った。放映日は師走の12月28日（0：20分）



すさまじや
ジユラ紀渦巻く 岩肌に
吉田類さんの一句

放映後の反響は大きく市南駐車場から三瀧・三窟をめぐる登山者が急増した。市南駐車場からの入山者が急増したことは言うまでもない。放映の影響が大きかったことを物語っている。

古賀志山に三瀧・三窟の存在すら知らない登山者が多く、本当の古賀志山を垣間見る絶好の機会となった。



吉報がある。「にっぽん百低山」の取材があることを知った地元自治会はさっそく動いた。大日窟の手前に長いこと倒れたままの石碑をコンクリートで固定・復元したのである。元禄 15 年（1702）、岩崎村の福田孫右衛門奉納の重量 300 kg 近い石碑を立て直したのである。ご苦労様でした。

II 古賀志山 山岳事故相次ぐ

令和5年に入って古賀志山での山岳事故が相次いで起きています。

- ・古賀志山大日山荒沢の瀧上 転落（女性） 死亡
- ・福岡町中尾根赤岩付近 転落（女性） 負傷
- ・古賀志山馬頭岩風神の祠付近 転落（男性） 負傷
- ・古賀志山中当山 パラグライダー-落下（男性） 死亡
- ・古賀志山中当山 ロッククライミング（男性） 死亡

上記3件の滑落事故は、いずれも登山道ではない岩場からの滑落事故であった。山においては「転ぶ」のも「滑る」のも「躓く」のも何千歩か歩いた内の「一步」である。これはベテランの初心者も関係ない落とし穴である。特に古賀志山は古生層ジュラ紀の岩場であり近郊の低山であるが侮らずヘルメットの着用は必要十分条件である。山の事故は自己責任とは言え、登山者は登山道ではない場所への立ち入りは厳に慎むべきであろう。

III 古賀志山に関する関係部署打ち合わせ開催。

令和5年1月17日、宇都宮市経済部観光交流課の計らいで標記の会合が開催された。趣旨は「古賀志山ハイキングコースについてより一層、登山者が安全安心にハイキングを行えるよう意見交換を行うもの」である。このような会合が市庁舎で開催されたことは画期的である

出席した関係部署は次の通り。「宇都宮中央警察署、宇都宮市消防局、日光森林管理署、宇都宮市森林組合業務部、市経済部農林生産流通課、市経済部観光交流課、同大谷振興課、栃木県山岳・スポーツクライミング連盟、NPO 法人古賀志山を守ろう会」

先ず、古賀志山ハイキングコースの現状として令和4年度の事故状況（下野新聞）の報告あり。

令和4年	1月	下山中滑落	男性	骨折
	同	岩場から滑落	女性	骨折
	3月	岩場から滑落	男児	打撲
	4月	登山道で転倒	男性	死亡
	12月	岩場から滑落	女性	骨折

近郊の低山での事故としては古賀志山の事故発生件数は特出して多い。山岳事故は遭われた本人の苦悩だけに止まらずご家族の悲嘆心労は計り知れない。

次いで観光交流課の取り組む現状の報告の後、当会が直面する諸問題を提起した。

- ①一般ルートから外れる登山者が多い
- ②民有林に多くの踏み跡が数多く作られること
- ③許可なく置物を置くことや工作物の破壊などをする登山者が多いことなど

最後に事故防止に係わる対応策について各団体より何ができるかの意見交換に入った。国有林の環境整備に関しては日光森林管理署から「古賀志山ハイキングコースに係わる協定」の内容説明があったことは大きな収穫であった。

IV 富士見沢の流木撤去作業（令和5年2月9日、2月22日、3月も予定）



富士見峠に至る北コースを流れ下る通称「富士見沢」には大量の流木が散在している。この沢は国有林の中を流れ下るため日光森林管理署の許可を得て実施した。流木は予想以上に多く通称「水場」から「広場」までの区間は3月の予定。



太い流木はチェーンソーの出番。切断された流木を右岸及び左岸の高台に引き上げる作業は大変な労力と危険性を伴う作業の連続である。中でもむき出しの鉄管はロープで縛り右岸の高所まで全員が力を合わせ運び引き揚げた。2月22日には日光森林管理署からも2名の署員が視察に訪れた。

V 富士見沢仮橋の架け替え計画（次年度の計画）



通称富士見沢には木橋の仮橋が架かっている。（左写真）老朽化が激しく増水時には危険なため架け替えを予定している。この個所にある巨岩が滑り易く怪我人が多く対策に苦慮していた。市観光交流課とも連携して安全性を確保したい。尚、橋に渡す丸太材は日光森林管理署から提供していただくことになっている。

VI 階段整備の材料確保・皮むき作業



間伐材の搬出（篠井町）令和4年12月8日



福田組合長の工場に搬入（新里町）



半割材の皮むき・切断（古賀志町）令和5年2月2日

次年度の階段整備に用いる材料の確保には宇都宮森林組合から支援協力があったことを報告したい。山林に放置されていた間伐材を無料提供してくれたのは宇都宮森林組合である。早速現地篠井町の山林に出向き車に積み込んだ。丸太材は半割する必要がある、福田組合長の製材工場まで運び、その後、皮むき・切断作業を行った。

VII 宇都宮ふるさと納税公益活動支援事業補助金決定！

令和4年度、当会が申請していた「宇都宮ふるさと納税公益活動支援事業補助金」に関しての交付決定額は次の通りです。¥43,400。会報誌を通して、皆様各位からの温かいご支援に感謝すると共に厚く御礼申し上げます。貴重な浄財を有効に活用する所存です。ありがとうございました。

VIII 余録

森林公園駐車場に車を止めた登山者が南階段コースを下った後、城山西小付近まで下りてきて、途方に暮れてうろうろして姿を見かけることが後を絶たない。単独行の初心者である。林道古賀志線の坊主山付近には二つの道標はあるにも関わらず見ていない証拠である。途中、間違えたら引き返す判断と意思が必要であろう。